

相愛大学研究シーズ集

シーズ名	言葉を用いた行動変容に関する研究		
所 属	人間発達 学部 子ども教育 学科		
氏 名	中村 敏		
【概要】			
子どもから大人まで、私たち人間は言葉の影響を受けて生活している。たとえば、人間関係は言葉と言葉のやりとりで成立するし、他者からの言葉を受けて自分の考えや行動が決定されることもある。言葉をうまく用いることや、他者からの言葉がけに適切に対応することは、円滑な社会生活を行う上で必須のスキルであると言える。たとえば、児童期においては、言葉を用いて他者と適切なコミュニケーションをとれるようになることが「幼児期の終わりまでに育ってほしい望ましい姿」の1つとされる。もし言語によるコミュニケーション能力がうまく発達しなければ、順風な社会生活を送ることができなくなってしまうたり、精神的な問題を起こしてしまったりすることになる。したがって、言葉が行動に与える影響や、言葉にうまく対処する方法について検討することは、幼児教育や社会問題にも繋がる重要な課題であると言える。そこで、本研究では、行動科学の立場から、言葉が行動に与える影響に関する基礎的な研究を行っている。具体的には、大学生を対象に他者から受ける言語刺激の影響について実験的に検討したり(中村・大河内, 2018, 2022; 中村・佐伯, 2019)、幼児教育に関係する言葉がけに関する今までの研究をレビューしたり(中村・杉本, 2022)といった研究活動を行っている。本研究で得られる成果は、精神的問題に対処するためのカウンセリング技法の開発や、質の高い幼児教育の実施に繋がることが期待できる。			
キーワード	行動変容、言語性制御、実験心理学、幼児教育		